

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森  
Tel: 04-7132-8800  
Fax: 04-7132-8806  
Email: info@konbukuroike.com  
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2022年8月

第100号

## 主な予定

### T-KIDS

#### 昆虫標本展示

8月13日(土)～

14日(日)

於：柏の葉 T-SITE

### T-KIDS

#### 森の昆虫博士養成講座

8月14日(日)

10:00～10:40

11:30～12:10

於：柏の葉 T-SITE

### 久保田先生

#### トラップ調査補助

8月19日(金)

8月20日(土)

## T-KIDS シェアスクール 夜の昆虫観察会

徳永 さと子

7月24日(日)午後7時より、今年も T-KIDS 主催の『夜の昆虫観察会』が当園にて開催されました。

開始時間30分前には既に公園に到着したご家族もあり、意気込みが伝わって来ました。受付を済ませた参加者の皆さんは、持参いただいたヘッドライトや懐中電灯に、昆虫観察用の赤いセロファンを巻いたり、配られた虫かごを持ったりと、準備に余念がありません。この日、集まってくれたのは小学3年生以上の10名のお子さん達と、その保護者の皆様です。中には、昨年も参加して下さったご家族もあり、開催の意義を感じると同時に、大変嬉しく思いました。



ライトトラップの準備も万端。あとは日が暮れるのを待つだけ。

簡単な挨拶と、注意事項をお話して、いよいよ観察会がスタートしました。5組ずつ2班に分かれ、1班はノジトラノオの草地方面から、2班はワタラセツリフネエリアから森に入ります。日が落ちてからは、昼間の暑さもやや落ち着き、森の入り口では、ニイニイゼミの大合唱が迎えてくれました。

ふとお子さん達の様子を見ると、みんな姿勢を低くして、地面にライトをあてながら熱心に昆虫を探しています。時折、何かを見つけては、頭を突き合わせてみんなで観察している様子が、なんとも微笑ましかったです。日頃から経験を積んでいるのか、お子さん達はしっかり観察ポイントを押さええており、転がった朽ち木をひっくり返してみたり、看板の裏をのぞき込んでみたり、こちらから言わなくても自分たちのペースで観察ができていたようです。



開催前、今年も出会えるといいなあとスタッフ同士話していたセミの羽化ですが、今年は期待以上に複数個所で観察ができました。これには、大人の皆さんも大喜び。スマホやカメラを構えながら、その美しさに思わずため息がもれます。

一方、もう一つの夏の主役であるカブトムシやクワガタですが、当園では何故か数が少ないようです。バナナトラップまで仕掛けてみましたが、やって来たのは、アリと数匹の蛾のみでした。それでも、樹液の出ている幹の窪みをよく見ると、小さなコクワガタの顎がのぞいていました。幹にいた別のコクワガタに出会えたラッキーなお子さんもいたようです。



夜のノジトラノオの草地は、さながらカマキリ王国のようでした。まだ翅の生えていない幼虫でしたが、オオカマキリらしい個体を多数目撃することができました。お子さん達に、昼と夜のカマキリの違いをたずねると、「夜は目が黒くなるんだよ」とあっさり正解されてしまいました。流石、よく知っていますね。カマキリがこれだけいるということは、餌となる昆虫も多いということです。お子さん達の虫かごには、大小さまざまなバッタが入りました。中でも、大きく成長したヤブキリは迫力満点！昨年より開催時期が早かったせい、鳴く虫は少なく、昨年よりうるさいほど聞かれたアオマツムシの合唱は、まだ始まらないようです。



夜の昆虫観察の一番の楽しみと言え、やはりライトトラップでしょうか。ライトトラップの成果は、時間帯や気温、湿度、風向きなど、あらゆる条件に左右されるのですが、月の光の影響もそのひとつ。この日の月齢は、新月まであと5日となった下弦の月でしたので、条件としては、まずまずといったところでしょう。期待が高まります。

参加者の皆さんの集まる前から点灯していたトラップに、結果、一番多く集まって来たのは、広葉樹の葉を食べるコガネムシ類でした。中でもアオドウガネが多く見られ、個体による色彩の変化も観察できました。ある男の子が持っていたプラスチック製の虫かごの底には、何匹ものコガネムシ類がツルツルと脚を滑らせたり、ひっくり返ったりしている一方で、網になった蓋の裏側には、バッタの仲間が静かにつかまっていた。「どうして分かれているのかな？」一緒に観察しながら、それぞれの脚の作りの違いや、暮らす環境の違いなどに思いを巡らせている様子でした。観察会は、受け身に留まることなく、自らも発見し、想像力を働かせた先にこそ、驚きや感動があるのだと、改めて気づかされました。



終了時間 30 分前に管理棟前に戻り、それぞれが持ち寄った昆虫をみんなで確認しました。その後、情報共有“虫合わせ”をしたところ、ざっと 50 種前後の昆虫が見つかったことがわかりました。なかなか一人の目ではここまで見つけれられません。お子さん達の大活躍のおかげです。観察した昆虫たちは、最後にみなさんの手で森に返していただきました。虫たちが帰って行く先に、カラスウリの花が美しく咲いていたのが印象的でした。

お帰りに、当園のハンドブックや、会員提供のカブトムシやクワガタなどをお土産にお持ちいただき、今年度の『夜の昆虫観察会』は無事に終了いたしました。

開催にあたり、ご協力いただきましたスタッフの皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。



## 観察できた昆虫・生き物種名一覧

コウチュウ目			バッタ目		
1	トウキョウヒメハンミョウ	オサムシ科	36	トノサマバッタ	バッタ科
2	ゴミムシの仲間	オサムシ科	37	ショウリョウバッタ	バッタ科
3	オオヒラタシデムシ	シデムシ科	38	コバネイナゴ	バッタ科
4	アカバネハネカクシ	ハネカクシ科	39	ヒシバッタの仲間	ヒシバッタ科
5	エンマコガネの仲間	コガネムシ科	40	ウマオイの仲間	キリギリス科
6	カプトムシの翅	コガネムシ科	41	ヤブキリ	キリギリス科
7	アオドウガネ	コガネムシ科	42	オンブバッタ	オンブバッタ科
8	コフキコガネ	コガネムシ科	<b>チョウ目</b>		
9	オオスジコガネ	コガネムシ科	43	ノメイガの仲間	ツトガ科
10	ドウガネブイブイ	コガネムシ科	44	ハマキガの仲間	ハマキガ科
11	ピロウドコガネ	コガネムシ科	45	タケカレハ(幼虫)	カレハガ科
12	コクワガタ	クワガタムシ科	46	コシロシタバ	ヤガ科
13	コメツキムシの仲間	コメツキムシ科	<b>ハチ目</b>		
14	サビキコリ	コメツキムシ科	47	ムモンホンアシナガバチ	スズメガ科
15	ナナホシテントウ	テントウムシ科	<b>ハエ目</b>		
16	ヨツボシケシキスイ	ケシキスイ科	48	ウシアブの仲間	アブ科
17	ウスバカミキリ?	カミキリムシ科	<b>ゴキブリ目</b>		
18	ナガゴマフカミキリ	カミキリムシ科	49	ヤマトゴキブリ	ゴキブリ科
19	ノコギリカミキリ	カミキリムシ科	50	モリチャバネゴキブリ	チャバネゴキブリ科
20	フタオビミドリトラカミキリ	カミキリムシ科	<b>カマキリ目</b>		
21	トラカミキリの仲間	カミキリムシ科	51	カマキリ(幼虫)	カマキリ科
22	イチモンジカメノコハムシ	ハムシ科	<b>トンボ目</b>		
23	シロコブゾウムシ	ゾウムシ科	52	オオシオカラトンボ	トンボ科
<b>カメムシ目</b>			<b>ナナフシ目</b>		
24	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ科	53	ナナフシモドキ	ナナフシ科
25	ミミズク	ヨコバイ科	<b>ハサミムシ目</b>		
26	アミガサハゴロモ	ハゴロモ科	54	ハサミムシの仲間	ハサミムシ科
27	クロスジアワフキ	アワフキムシ科	<b>その他の生き物</b>		
28	アブラゼミ	セミ科	<b>クモ目</b>		
29	ニイニイゼミ	セミ科	55	シロカネグモの仲間	アシナガグモ科
30	ヒグラシ	セミ科	56	コガネグモ	コガネグモ科
31	サシガメの仲間	サシガメ科	57	ゴミグモ	コガネグモ科
32	ヒメホシカメムシ	オオホシカメムシ科	58	サツマノミダマシ	コガネグモ科
33	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ科	<b>有肺目</b>		
34	アカスジキンカメムシ	キンカメムシ科	59	ヒダリマキマイマイ	オナジマイマイ科
35	チャバネアオカメムシ	カメムシ科			

☆種名がはっきり確認できなかったものは、「～の仲間」として加えました。

☆科名が複数考えられるものは、記載していません。

## 新入会員紹介

### 松永 光幸さん



参加動機：自然を知りたい。貴重な種が多く住むこんぶくろ池素晴らしいです。

貢献できそうなこと：造園・園芸、機械・電気・工具のメンテナンス、調査

ひとこと：絶滅危惧種も数多く住むこの森林を守れるよう少しでも力になれば幸いです。

## 秋水燃料庫 2号基 2022年度内に公開へ

浦久 淳子

こんぶくろ池自然博物公園内の秋水燃料庫 2号基が、2022年度内に整備・公開されることになり、2022年2月21日に最初の工事が行われた（写真①）。今後、詳細が設計され、整備工事が行われる予定である。

私はNPO法人こんぶくろ池自然の森の会員であるとともに、柏歴史クラブでも活動している。柏の葉地域に残っていた燃料庫跡の調査は、歴史クラブが千葉県や柏市、NPO法人こんぶくろ池自然の森など他団体に協力いただきながら進めた。公開される前だが、これまでの経緯をまとめたい。

5カ所の秋水燃料庫跡を、歴史クラブで発見したのは2010年4月4日。閉鎖した柏ゴルフ倶楽部跡地のマウンドに小さく開いた穴があり（写真②）、そこにカメラを差し込んで撮影するとコンクリートの空間が広がっていた。それがロケット戦闘機「秋水」のヒューム管型燃料庫の一部だった。つくばエクスプレスに関連する開発地域だったために、歴史クラブでは「何とか保存できないか」と、直後の4月7日から千葉県・柏市と相談を始めた。

その時から現在まで、諸機関・団体・個人との協働による工事現場での検証や調査を通して、燃料庫の構造が徐々に明らかになった。L字型、半地下でヒューム管使用、貯水槽の可能性がある構造物も付設していた。残念ながら本体が残っていた4基のうち2基は撤去されたが、残り2基は保存。より良好な状態の2号基の整備・公開が2022年度内に実現する運びとなった。



歴史クラブが発見した2009年頃、柏飛行場や秋水は、限られた人のみを知る歴史だった。しかし、調査で分かったことは県・市の協力を得ながら見学会などを開催し、マスメディアにも大きく取り上げてもらったため、かなり多くの方々に知っていただけたと思う。

今回の燃料庫の整備・公開で、次世代へ確実に伝えられる場が一つ増えた。より広く、より長く、地域の歴史が記憶されるよう活動を続けていきたい。



写真② 旧柏ゴルフ倶楽部跡地で見つけた、最初の燃料庫の痕跡（2010年4月）

#### 発見から現在までの経緯（抜粋）

- ・ 2009年6月：「柏市北部戦跡めぐり」で秋水掩体壕と言われている場所を見学（後に掩体壕ではなく燃料庫と判明）
- ・ 2010年4月：柏ゴルフ倶楽部跡地で5カ所のヒューム管式燃料庫跡の存在を確認
- ・ 2010年8月：燃料庫の見学会を開催
- ・ 2010年9月：県の旧石器時代の遺跡調査に伴い、4号基の一部が露出。ヒューム管の外側を確認
- ・ 2012年6月：地形と空中写真から遺構の残存を推定していた2号基も、遺構が残っていることが判明
- ・ 2012年9月：4・5号基間の道の掘り下げ工事で燃料庫の下にあったコンクリート片を確認
- ・ 2014年10月：市長・教育長へ要望書「柏市に残存する戦争関係遺跡の調査と保存のお願い」提出
- ・ 2014年11月：5号基の覆土がエリア整備で取り除かれたため、見学会開催（写真③）。ヒューム管2個の連結した外観と、貯水槽につながる管を確認（後、撤去）
- ・ 2015年3月：公園造成に伴い1・2号基が試掘。ヒューム管と貯水槽がつながった状態を確認

- ・ 2015年5月：『柏にあった陸軍飛行場～「秋水」と軍関連施設～』（柏歴史クラブ編）発行
- ・ 2016年8月頃：公園駐車場造成のため、燃料庫4号基が掘り起こされた（後、撤去）
- ・ 2016年9月：市長・教育長宛「ロケット戦闘機『秋水』用燃料庫5号基の移設・保存に関する要望書」提出
- ・ 2016年11月：柏市議会に「市域に残る戦争関連遺跡の調査・保存・公開に関する請願」を提出し、全会一致で採択。柏市が「5号基移設は難しいが公園内の1～3号は保存。2号基は見えるように整備する」と決定
- ・ 2022年2月：2022年度整備へ向け、2号基を掘り起こし計測



写真③ エリア整備で5号基の土が取り払われたため見学会を開催。100人限定だったが、すぐに満員に（2014年11月）

### NPO との連携

柏歴史クラブが発足したのは2009年7月だが、前月の6月に「柏市北部戦跡めぐり」を実施した。見学地の一つに、区画整理前の旧柏ゴルフ倶楽部跡地があり、その見学をきっかけに柏飛行場の調査が始まることになった。当時は藪に覆われた地域だったが、そこを現在の燃料庫跡まで案内してくださったのが、NPO設立前の「調査隊」のメンバーの大貫遵子さんと山下紀子さん。周辺の手先の情報も含め、いろいろご教示いただいた。

そして、2号基の整備・公開の実現へ向けて最後の働きかけをしてくださったのが、理事長の岡本昇さんである。2号基の公開は決まっていたものの、一号近隣公園全体の整備があり、燃料庫については

進んでいなかった。そのような状況下で岡本さんが「燃料庫の整備」を柏市へ再確認、後押ししてくださった。

柏の葉地域における燃料庫発見から公開までの約 13 年間、最初と最後の大切な役割を担っていただいたことに厚くお礼を申し上げる。

## 7 月理事会

日時：2022 年 7 月 30 日（土）10:00～12:15

出席理事：岡本、上田、中川、徳永、萩原

会計：松尾

### 1. 審議検討・確認事項

#### (1) 2022 年度第一四半期会計報告について

会計担当松尾さんから報告があった。

#### (2) 当番日当報酬額改定について

令和 5 年 4 月以降の一部変更について話し合った

#### (3) 除草手当の改定について

令和 5 年 4 月以降の一部変更について話し合った

#### (4) NPO 活動総合保険等保険料算定基礎情報の考え方について

- ・ 保険料支払い金額に関して、活動の人数及び時間等、算定基礎の明確化が必要。
- ・ レクリエーション保険には名簿が必要となる可能性あり。当 NPO 主催であれば準備可能。
- ・ 当 NPO 主催以外の活動、および来園者に事故などが発生した場合の対応は柏市。

#### (5) T-KIDS 及び柏の葉 T-SITE とのイベント結果報告と準備状況について

##### 【結果報告】7/24（日）夜の昆虫観察会

盛況のうちに無事終了。お土産のカブトムシも好評。今年はセミの羽化がたくさん見られたのが良かった。カラスウリの花も大人に喜んでいただけた。

##### 【準備状況】8/13（土）&14（日）こんぶくろ池の昆虫について

- ・ 14日のクラスの申し込み状況、1回目男児7名、2回目男児3名。
- ・ どの時間帯も最低2名のスタッフは確保済み。シフト表は追って会員に連絡（徳永）
- ・ 当日スケジュール

7:30 管理棟より標本箱、消毒に必要なものなどの荷物の運び出し（萩原・徳永）

8:00 T-KIDSにて会場づくり

9:00 T-KIDS 開店

(6) 今年度の「里山保全活動体験会」の開催について

- ・ 今年度も例年通り高校生以上を対象として11月&3月に開催。
- ・ 申込方法は、公園緑地課にメールにて申し込む方式に。緑地課に確認予定
- ・ 広報かしわ、かわら版への希望掲載記事

(7) 6/28 (火) 実施 公園緑地課との打合せ結果報告について

中川理事より報告があった

(8) 7/7 (木) 実施 柏市里山ネットワーク交流会結果報告について

- ・ 「森林環境譲与税」について、当NPOはナラ枯れ対策の部分で贈与対象となる。
- ・ コロナ禍で中断していた「クラフト展」再開に協力予定。内容要検討。

(9) 「池物語」の増補版について

- ・ 増刷にあたり、アドバイザーの先生方に了承をとる(萩原)
- ・ 数名の編集委員をたて、増刷に際し必要な事項を確認し、検討する。
- ・ 見積等、増刷にあたり確認が必要な事項について第一刷発行元確認する。(上田)

(10) 今後の「花暦」の取扱について

これまで発行されていた「花暦」は継続が難しい。各月に、こんぶくろ池自然博物公園で見られる花などを紹介し発信する形を今後検討する。開花状況など、これまでの資料を活用したい。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

## 編集後記

今回のこんぶくろ池通信は、記念すべき100号目になります！

2014年に当時の事務局長だった古橋さんから、会員向けの会報を毎月作成し、里山班、調査班のコミュニケーションを図ったらどうだろうかというアイデアから始まり、4月の準備号を含めて今回で101回目の発行となりました。

私も毎月ネタがあるのかなと心配し、無理せず3ヶ月に1回くらいで良いのではないかという意見もありましたが、毎月皆さんから投稿記事をいただき、ひと月も欠かすことなく発行することができました。100年の森ですからまだまだ先は長いですが、これからもご協力よろしくお願ひします。(萩原秀夫)